

L
16

社會調查資料(第三卷)

行旅病人
行旅死亡人
ニ關スル調査

東京府内務部社會課

国立保健医療科学院蔵書



10012074

川上理一先生

L

16

2
18

はしがき

一、本調査は行旅病人及行旅死亡人に就いて詳細に調査し関係法規及取扱上に於ける改正に關し參考資料を提供せんとするものなり。

一、本調査は東京市養育院の資料によりたる點尠からず養育院に對し厚く感謝の意を表す。

大正十五年三月

東京府内務部社會課



はしがき

一、本調査は行旅病人及行旅死亡人に就いて詳細に調査し関係法規及取扱上に於ける改正に關し参考資料を提供せんとするものなり。

一、本調査は東京市養育院の資料によりたる點尠からず養育院に對し厚く感謝の意を表す。

大正十五年三月

東京府内務部社會課

行旅病人及行旅死亡人に関する調査目次

總 說

一、調査の動機……………	一
二、調査の方法……………	一

調査の結果

一、六大都市を包含する府縣の行旅病人並に行旅死亡人費比較……………	二
二、行旅病人及行旅死亡人費及取扱件數比較……………	九
三、本籍地別調査……………	二四
四、浮浪前住所及發見場所別調査……………	二七
五、在京期間及入院當時年齢別調査……………	三三
六、上京目的別調査……………	三四
七、教育程度及職業別調査……………	三六
八、行旅病人發見當時の疾病別調査……………	三〇
九、行旅病人在院年月別調査……………	三四

一〇、行旅病人となるに至りし重なる原因別調査……………三六

二、行旅病人及行旅死亡人の所持並に遺留金品別調査……………三七

三、行旅病人及行旅死亡人取扱費に關する調査……………三九

結 論

附 録

一、東京市養育院 大正十三年度決算
大正十四年度豫算……………六二

二、大正十三年
大正十四年度東京府社會事業費豫算……………八一

三、管下恤救關係の社會的施設……………九七

四、行旅病人及行旅死亡人取扱關係法規……………一〇五

行旅病人並に關する調査
行旅死亡人に關する調査

總 說

(一) 調査の動機

本府に於ける行旅病人並行旅死亡人費は他の六大都市を包含する府縣に比し人口の割合以上甚だしく多額を要するを以て之を詳細に調査し其原因那邊に存するや、之を未然に防止する方法なきや、未然に收容すべき施設に不足又は缺陷なきや、法規又は取扱上の不都合のため窮民を行旅病人となすの弊害なきや、又此等行旅病人は如何なる歸趨状況なりや等に對し相當の根據を得んが爲に計畫せるものなり。

(二) 調査の方法

經費等に關する諸調査を除ける行旅病人及行旅死亡人に對する諸調査は、大正十三年度及大正十四年度前半期に本府に於て取扱ひたる「ケース」につき、本府及東京市養育院の資料により一人毎にカードを作製し、之を集計整理せるものなり。然れども調査の目的に對し本府及養育院の資料完璧を期

る能はざりしを以て個々の調査につきては記入事項の明瞭なるものを採りたるにより、各調査につき其件数一様ならざるを遺憾とす。

調査の結果

(一) 六大都市を包含する府縣の行旅病人並に行旅死亡人費比較

大正十二年末全國行旅病人現在數二、二八八人其内東京府現在數一、一二四同年全國行旅死亡人數四、五五七人其内東京府一、五八七人を算し行旅病人の如きは全國の約半數を占む。尙之を経費の點に就て見るに全國行旅病人並に行旅死亡人費四三四、〇四九圓なるに東京府に於て二八三、八〇一圓(決算額)全國の約三分の二に相當す。更に之を六大都市を包含する府縣の行旅病人及行旅死亡人費につき大正十四年度の豫算に依りて之を見るに東京府は二八三、二〇九圓にして、之を國勢調査の結果による人口數に於て除したる一人當を見るに六・三錢に當る大阪府に於ては五〇、一四七圓其一人當一・六錢に當る次に神奈川縣に於て一・四錢其他は非常の小額なり今之が詳細なる數字を示せば次の如し。

府縣名	人口數	大正十四年度行旅病人及行旅死亡人費	一人當り行旅病人及行旅死亡人費
東京府	四、四八四、八四五	二八三、二〇九 ^四 三三〇	〇六三
大阪府	三、〇五九、五〇二	五〇、一四七〇〇〇	〇一六
京都府	一、四〇五、五〇七	七、〇〇二〇〇〇	〇〇五

府縣名	人口數	大正十四年度行旅病人及行旅死亡人費	一人當り行旅病人及行旅死亡人費
神奈川縣	一、四二〇、六八四	一九、七〇〇〇〇〇	〇一四
愛知縣	二、三一九、二四八	七、七〇〇〇〇〇	〇〇三
兵庫縣	二、四五四、七八四	一一、六五八〇〇〇	〇〇五

備考 人口數は大正十四年國勢調査(速報)に依る又東京府豫算は追加豫算をも合したる額なり次に大正十三年度十四年度の各府縣の該豫算及教育費豫算の内譯を示せば次の如し。

(六) 大都市を含む府縣に於ける行旅病人並に行旅死亡人費十三年度及十四年度豫算比較表

府縣別	十三年度	十四年度
東京府	二五七、七六八 ^四 〇〇	二八三、二〇九 ^四 〇〇
大阪府	四四、〇五四 ^四 〇〇	五〇、一四七 ^四 〇〇
京都府	六、九五三 ^四 〇〇	七、〇〇一 ^四 〇〇
神奈川縣	一一、九〇〇 ^四 〇〇	一九、七〇〇 ^四 〇〇
愛知縣	七、七〇〇 ^四 〇〇	七、七〇〇 ^四 〇〇
兵庫縣	一一、〇九四 ^四 〇〇	一一、六五八 ^四 〇〇

大正十四年度及大正十三年度東京府教育費豫算

市郡部

款	救 育 費	大正十四年度	八〇〇、〇〇〇	大正十三年度	七七五、七四二
項	救 助 費	八〇〇、〇〇〇	七七五、七四二		

目	行旅病人及行旅死亡人費	二五七、七六八(追加豫算二五、四四一圓)	二五七、七六八
目	精神病者費	四六、四八六	四五、〇〇七
目	代用精神病院費	四九五、七五六	四七二、九六七

款	救 育 費	大正十四年度	一九、二八七	大正十三年度	一九、五九三
項	救 助 費	一九、二八七	一九、五九三		
目	窮民救助費	七、五八一	七、四〇八		
目	棄兒費	一一、七〇六	一一、一八五		

大正十四年度及大正十三年度兵庫縣救育費豫算

市 部

款	救 育 費	大正十四年度	一七、三八六	大正十三年度	一三三、二四三
項	救 助 費	一七、三八六	一三三、二四三		

目	窮民救助費	二五〇	二
目	養育費	一七四	一五八
目	行旅病人行旅死亡人諸費	八、三六八	八、四三九
目	精神病者監護費	八、五九四	一五、八六八

郡 部

款	救 育 費	大正十四年度	五、五〇〇	大正十三年度	六、一一一
項	救 助 費	五、五〇〇	六、一一一		
目	窮民救助費	一六〇	一七八		
目	養育費	二二三	二三七		
目	行旅病人行旅死亡人諸費	三、二九〇	三、六五五		
目	精神病者監護費	一、八三七	二、〇四一		

大正十四年度及大正十三年度愛知縣救育費豫算

聯 帶

款	救 育 費	大正十四年度	一四、五七二	大正十三年度	一三、八一五
項	救 助 費	一四、五七二	一三、八一五		

目 窮民救助費	四〇〇	六
目 行旅病人行旅死亡人諸費	七、七〇〇	七、七〇〇
目 精神病者監護費	六、四七二	五、七一五

大正十四年度及大正十三年度神奈川縣教育費豫算

市 部

款 救 育 費	大正十四年度	同追加豫算	大正十三年度
項 救 助 費	三六、六七九	七、八〇〇	三六、六七九
目 窮民救助費	三六、六七九	七、八〇〇	三六、六七九
目 行旅病人行旅死亡人諸費	六、一一〇	六、一一〇	六、一一〇
目 精神病者諸費	七、〇〇〇	七、八〇〇	七、〇〇〇
郡 部	二三、五六九		二三、五六九

款 救 育 費	大正十四年度	大正十三年度
項 救 助 費	九、一八一	九、一八一
目 窮民救助費	九、一八一	九、一八一
目 精神病者諸費	一、〇六二	一、〇六二

目 行旅病人行旅死亡人諸費	四、九〇〇	四、九〇〇
目 精神病者諸費	三、二一九	三、二一九

大正十四年度及大正十三年度大阪府教育費豫算

款 救 育 費	大正十四年度	大正十三年度
項 救 助 費	九九、九二四	一一〇、五七〇
目 行旅病人行旅死亡人諸費	九九、九二四	一一〇、五七〇
目 棄 兒 救 護	五〇、一四七	四四、〇五四
目 精神病者監護費	一〇五	一〇五
目 精神病者監護費	四九、六七二	六六、四一一

大正十四年度及大正十三年度京都府教育費豫算

款 救 育 費	大正十四年度	大正十三年度
項 救 助 費	八〇、四八六	一〇四、五〇二
目 行旅病人及同伴者諸費	一九、二八四	一七、三九〇
目 行旅病人及同伴者諸費	六、一四一	六、一八八

目 行旅死亡人及同伴者諸費	一九七	八
目 精神病者監護費	一一、九四六	一一二
郡		一一、〇八〇

款 救 育 費	二九、九〇五	三五、三五七
項 救 助 費	四、四二五	四、一五一
目 行旅病人及同伴者諸費	二九三	三四二
目 行旅死亡人及同伴者諸費	三七〇	三〇一
目 精神病者監護費	三、七六二	三、五〇八

以上の諸表より之を觀察するに東京府に於て行旅病人及行旅死亡人費に多額の經費を要するは大要次の諸項に其因を有するが如し。

- 一、窮民の救助は東京市及近接町村が當然自体に於て救助すべきに係らず之を避け行旅病人として取扱ふの傾向を有すること。
 - 一、行旅病人を收容すべき養育院といふが如き比較的完備せる設備を有すること。
 - 一、東京は我邦の中央に位する大都市にして且つ附近に小中市比較的分散せざるを以て之を目標として關東北陸東北地方より出稼者移住者群集し來るの傾向を有すること。
 - 一、東京は富者成功者の大集團地たると同様に敗殘者落伍者の大集合地なること。
- 其他詳細なる觀察は項を改めて記述せんとす。

(二) 行旅病人及行旅死亡人費及取扱件數累年比較

行旅病人費及行旅死亡人費は累年經費膨脹し殆んど停止する處なきが如し。而して行旅病人數(養育院入院數)は大正七年度より大正十一年度に至る大体順次其數を増加し來りしも大正十二年度(大震災の當年)一般的救護の影響を受けたる爲か其數稍減じ、大正十三年度に至り再び増加の傾向を示せるが如し。而して行旅死亡人に於ては大正八年度以降大正十一年度に至る一進一退の状態より大正十二年度に至り頓に其數増加し、大正十三年度稍々減じたるも前記八年度以降に比すれば甚だしき逕庭あるが如し。(以上は次に示す入院者種類別及行旅死亡人年度別取扱數參照を要す)惟ふに兩者を合したる人員の増減が經費に影響するは言を俟たざる處なるも、其重なる原因は物價騰貴に伴ふ入院料の増加之なり。今一日一人當入院料増加の狀況を示せば次の如し。

大正七年四月一日	三十二錢
大正八年四月一日	四十錢
大正九年四月一日	四十九錢
大正十年四月一日	五十九錢

今大正七年度以降の累年豫算決算表を示せば次の如し。

年 度	窮 民	行旅病人	棄 兒	遺 兒	迷 兒	感化生	合 計
大正八年	一六二	一、五八八	七八	二四	一三四	三〇	二、〇一六
大正九年	八〇	一、四六四	四四	二一	一一二	四三	一、七六四
大正十年	八二	一、六六三	五九	一〇	九九	四九	一、九六二
大正十一年	七二	一、八二七	四〇	一四	三八	五一	二、〇四二
大正十二年	三〇	一、四二九	三二	二	六二	四一	一、五九六
大正十三年	八	一、六七七	四六	四	六二	四四	一、八四一
合 計	七一九	一、二七二	三九二	九八	六六八	三五	一三、五〇〇

次に年度末現在の養育院入院者の種類を見るに次の如し

年度末現在者種類別

年 度	窮 民	行旅病人	棄 兒	遺 兒	迷 兒	感化生	合 計
大正七年	四七二	一、〇九七	四五二	九八	八七	二一六	二、四三二
大正八年	四一一	一、〇四〇	四四二	八八	六二	一四七	二、一九〇
大正九年	三八四	一、〇〇三	四〇七	八一	七三	一二四	二、〇七二
大正十年	三五二	一、〇四〇	三五七	六六	四八	一一九	一、九八一
大正十一年	三五七	一、一八二	三三三	七〇	一三	一一八	二、〇六三
大正十二年	三二七	一、一二四	三〇四	六四	二六	一〇九	一、九五四
大正十三年	二九九	一、三五四	三〇八	六五	三一	九八	二、一五一

以上の二表より見るに窮民は漸次減少し行旅病人順次増加せるが如し更に行旅死亡人の年度別取扱数を見るに次の如し。

行旅死亡人年度別取扱数

年 度	男	女	計
大正八年	四三二	一三二	五六三
大正九年	三八二	一二七	五〇九
大正十年	三八八	一〇〇	四八八
大正十一年	四一一	一一四	五二五
大正十二年	一、一三四	四五三	一、五八七
大正十三年	七〇六	二四四	性不明 三六八

最後に養育院に於ける入出院総数を参考迄に示さんとす

入出院総数累年比較

年 度	前年度より越	入 院	出 院	逃 亡	死 亡	年度末現在
大正七年	二、五六一	二、二七九	一、〇二五	二七六	一一七	二、四二二
大正八年	二、四三二	二、〇一六	九九二	二五六	一、〇〇〇	二、一九〇
大正九年	二、一九〇	一、七六四	九一四	一八四	七八四	二、〇七二
大正十年	二、〇七二	一、九六二	一、〇三九	二三七	七七七	一、九八一
大正十一年	一、九八一	二、〇四二	一、〇一六	一八〇	七六四	二、〇六三

本籍別	男	女	計	本籍別	男	女	計
青森	1	2	3	不詳	62	45	106
山形	1	1	2	合計	571	291	862

更に東京府に本籍を有するものに就て見るに三八二の中市部計三二四郡部計五八、市内の各區に就て見るに下谷區四九淺草區四三本所區三六深川區三五の順位、郡部に於ては南葛飾郡一五北豊島郡一四豊多摩郡一三の順位なり。其詳細は次表に示すが如し。

本籍地別調査 第二表(管内に本籍を有するもの)

郡區別	男	女	計	郡區別	男	女	計
麴町區	7	3	10	深川區	22	13	35
日本橋區	0	9	9	東京市計	194	130	324
京橋區	4	2	6	荏原郡	4	2	6
神田區	17	22	39	豊多摩郡	8	5	13
芝坂區	1	4	5	北豊島郡	0	4	4
赤坂區	5	4	9	南葛飾郡	7	8	15
麻布區	5	1	6	南足立郡	2	2	4
牛込區	2	5	7	北多摩郡	1	1	2
四谷區	9	3	12	南多摩郡	1	1	2

郡區別	男	女	計	郡區別	男	女	計
小石川區	8	7	15	西多摩郡	1	1	2
本郷區	9	5	14	八王子市	4	1	5
下谷區	34	15	49	小笠原	1	1	2
淺草區	22	21	43	合計	36	33	69
本所區	19	17	36	合計	230	152	382

(四) 浮浪前住所及發見場所別調査

浮浪前の住所に就て地區別に之を見るに、其數最も多きは市部に於て淺草區の四六、次は深川區の三九本所區の二五下谷區の一八の順位。郡部に於ては北豊島郡の二一第一位を占め、豊多摩郡南葛飾郡の九六に次ぐ。又浮浪前他府縣にありしもの五四不定三二七の多きに及ぶ。而して不詳二三七。今浮浪前住所地區別調査を示せば次の如し。

浮浪前住所地區別調査

郡區別	男	女	計	郡區別	男	女	計
麴町區	1	1	2	市部計	122	77	199
日本橋區	3	3	6	荏原郡	2	2	4
京橋區	4	3	7	豊多摩郡	4	5	9
神田區	8	3	11	北豊島郡	7	4	11

郡區別	男	女	計	郡區別	男	女	計
芝坂區	四	三	七	南葛飾郡	三	六	九
赤坂區	二	一	三	南足立郡	一	一	二
麻布區	五	四	九	北多摩郡	一	一	二
牛込區	一	二	三	南多摩郡	一	一	二
四谷區	八	二	一〇	西多摩郡	一	一	二
小石川區	九	六	一五	郡部計	二六	一九	四五
本郷區	六	三	九	八王子市	一	一	二
下谷區	一	七	八	不詳	二二六	九一	三二七
淺草區	二九	一七	四六	他縣ヨリ來タ ルモノ	三〇	二四	五四
本所區	一五	一〇	二五	合不詳計	一五七	八〇	二三七
深川區	一八	一三	三一	計	五七一	二九一	八六二

備考 本調査合計八六二は本府に於て大正十三年度大正十四年度前半期に於て取扱ひたる件數なり。

次に發見場所別に之を見るに其數最も多きは市部に於ては淺草區一三七最高にして、之に次ぐは小石川區の一四、下谷區の七八、深川區の七七の順位。郡部に於ては北豊島郡の一六三第一位を占め豊多摩郡の三九、南葛飾郡の二六の順位なり。而して之を市部計と郡部計とに就て比較するに、市部に於て六〇七、郡部に於て二五五を算す。

發見場所地區別調査

郡區別	男	女	計	郡區別	男	女	計
麴町區	一〇	四	一四	深川區	五二	二五	七七
日本橋區	一八	二	二〇	市部計	四〇八	一九九	六〇七
京橋區	一	二	三	荏原郡	一一	六	一七
神田區	一七	八	二五	豊多摩郡	二六	一三	三九
芝坂區	一四	六	二〇	北豊島郡	一〇二	六一	一六三
赤坂區	八	四	一二	南葛飾郡	一七	九	二六
麻布區	六	五	一一	南足立郡	三	一	四
牛込區	二	八	一〇	北多摩郡	一	一	二
四谷區	二四	一〇	三四	南多摩郡	二	一	三
小石川區	六八	四六	一一四	西多摩郡	一	一	二
本郷區	一七	六	二三	八王子市	一	一	二
下谷區	五四	二四	七八	郡部計	一六三	九二	二五五
淺草區	一〇〇	三七	一三七	合不詳計	五七一	二九一	八六二
本所區	一七	一二	二九	計	五七一	二九一	八六二

次に浮浪前の住所を發し如何なる場所に於て行旅病人となりしかに就て二九八の件數により見るに浮浪前の住所市部に於ては一九九、郡部に於て四四、他府縣に於て五四。尙之が詳細に就て見るに市

發見場所	浮浪前住別		西多摩郡	八王子市	郡部計	他府縣	總計
	區	別					
龜町							三
日本橋區							九
神田區							一三
芝區							五
赤坂區							三
麻布牛込區							七
四谷區							一〇
小石本郷區							二
下谷區							三
淺草區							二
本所區							三
深川區							三
東京市							四
原市							二
多摩郡							九
北豐島郡							九
南葛飾郡							一
南足立郡							一
北多摩郡							一
南多摩郡							一
西多摩郡							一
八王子市							一
郡部計							三
總計							二六

(五) 在京期間及入院當時年齡別調査

行旅病人八六二(取扱時期同前)の中不詳三三五を控除し五二七に就て之を見るに東京居付のもの一
 二五在住一年以下のもの一〇二、三年以下のもの三〇、五年以下のもの三〇、五年以上のもの二四〇
 を算す次に年齢別に就て見るに一五歳以下八四、四〇歳以下一八三、六〇歳以下二五四、六一歳以上
 三二五を示す今詳細なる調査を示せば次の如し。

在京期間、年齢、及体性別調査

在京期間	性別		不明	計
	女	男		
一年以下	一	三	一	五
一年以上	一	三	一	五
二歳以下	一	三	一	五
三歳以下	一	三	一	五
四歳以下	一	三	一	五
五歳以下	一	三	一	五
六歳以下	一	三	一	五
七歳以下	一	三	一	五
八歳以下	一	三	一	五
九歳以下	一	三	一	五
十歳以下	一	三	一	五
十一歳以下	一	三	一	五
十二歳以下	一	三	一	五
十三歳以下	一	三	一	五
十四歳以下	一	三	一	五
十五歳以下	一	三	一	五
十六歳以下	一	三	一	五
十七歳以下	一	三	一	五
十八歳以下	一	三	一	五
十九歳以下	一	三	一	五
二十歳以下	一	三	一	五
二十歳以上	一	三	一	五
不明	一	三	一	五
計	一	三	一	五

在京期間	性別		不明	計
	女	男		
一年以下	一	三	一	五
一年以上	一	三	一	五
二歳以下	一	三	一	五
三歳以下	一	三	一	五
四歳以下	一	三	一	五
五歳以下	一	三	一	五
六歳以下	一	三	一	五
七歳以下	一	三	一	五
八歳以下	一	三	一	五
九歳以下	一	三	一	五
十歳以下	一	三	一	五
十一歳以下	一	三	一	五
十二歳以下	一	三	一	五
十三歳以下	一	三	一	五
十四歳以下	一	三	一	五
十五歳以下	一	三	一	五
十六歳以下	一	三	一	五
十七歳以下	一	三	一	五
十八歳以下	一	三	一	五
十九歳以下	一	三	一	五
二十歳以下	一	三	一	五
二十歳以上	一	三	一	五
不明	一	三	一	五
計	一	三	一	五

種別	性別		年齢		合計	計	不詳	東京居住者		奉公ノ爲	行商ノ爲		出稼
	男	女	男	女				男	女		男	女	
以一〇歳以下					三	三		二	四				
以一五歳以下					三	三		二	一				
以二〇歳以下					四	四		三	一				
以二五歳以下					四	四		二					
以三〇歳以下					三	三		一	一				
以三五歳以下					三	三		二					
以四〇歳以下					四	四		二					
以四五歳以下					四	四		二					
以五〇歳以下					四	四		一	二				
以五五歳以下					六	六		三	一				
以六〇歳以下					三	三		二	四				
以六〇歳以上					三	三		三	三				
不明					三	三							
計					三	三		三	三				

備考 年齢別は入院當時の年齢なれども参考の爲之を示す。

(七) 教育程度及職業別調査

行旅病者八六二(取扱時期同前)の中不詳一八三を控除したる六七九に就て其教育程度を見るに無教

育一九三、尋常小學半途退學二九九、尋常小學卒業一四六を算し大部分教育程度低し。只高等程度の教育を受けたるもの少數存するは注意を要す。其詳細次の如し。

教育程度	男女別		計
	男	女	
無教育	一〇一	九二	一九三
尋常小學半途退學	二〇六	九三	二九九
尋常小學卒業	一一三	二四	一四六
高等小學半途退學			
高等小學卒業	二四		二六
中等學校半途退學	九		九
同上卒業	四		四
高等學校同程度半途退學	一		一
同上卒業	一		一
不詳	一〇三	八〇	一八三
計	五七一	二九一	八六二

次に行旅前の職業別に就て見るに次の如し。

行旅前職業別調查

職業別	男	女	計	職業別	男	女	計
小學教員	1		1	木挽	4		4
巡查	1		1	左官	3		3
會社員	2		2	建築指物師	5		5
郵便集配人	2		2	疊職	2		2
米穀商	1		1	笛職	1		1
潜水夫	1		1	ペンキ職人	4		4
人力引	1		1	鳶職	6		6
農業者	7		7	籠職	2		2
漁師	2		2	庭師	4		4
大工	1		1	理髮職人	2		2
下駄職人	5		5	帽子製造職工	1		1
汽罐火夫	1		1	紡績職工	1		1
印刷職工	6		6	鍛冶鑄物職工	3		3
塗料職工	2		2	製菓職工	1		1
染料職工	4		4	石鹼工場女工	0		0
木版及彫刻職工	2		2	カモシ職工	2		2
製綿職工							

職業別	男	女	計	職業別	男	女	計
筆刷毛職工	5		5	下女	1	0	1
其他男女工	9		9	其他家事使用人	7	0	7
魚類行商	7		7	探礦工夫	2		2
鼻緒行商	1		1	荷車馬車引	3		3
備行商	3		3	輕子	5		5
納豆賣	3		3	日傭人夫	4		4
唐辛行商	1		1	集金人	1		1
小間物行商	1		1	周旋業	1		1
煙管仕替	6		6	生花教授	1		1
其他行商	1		1	三味線師匠	1		1
玩具露店商	1		1	遊藝人	3		3
其他露店商	1		1	藝娼妓	1		1
出前及料理人	6		6	新開配達及賣子	2		2
豆腐賣子	1		1	屑屋	8		8
學校小使	1		1	按摩	4		4
旅人宿傭人	1		1	夜配	1		1
西洋洗濯配達人	1		1	花配	4		4
質屋番頭	1		1	ビラ賣	1		1
子守	1		1	易者行	1		1

職業別	男	女	計	職業別	男	女	計
鼻緒内職	1	1	2	團扇製造	1	1	2
手袋内職	1	1	2	其他内職	1	1	2
和洋裁縫	4	1	5	計	387	145	532
貸仕事	1	1	2				

(八) 行旅病人發見當時の疾病別調査

行旅病人發見當時の疾病調

病名	男	女	計	病名	男	女	計
神經系疾患	118	41	159	腦膜炎	3	1	4
半身不隨症	69	24	93	癱瘓症	3	1	4
坐骨神經痛	7	6	13	ヒステリー	3	1	4
脊髄炎	2	1	3	腦水腫	2	1	3
腰痛	8	3	11	脊髄勞	2	1	3
痲痺症	6	1	7	頭痛	1	1	2
癩癩	3	1	4	呼吸器病	65	22	87
腦溢血	5	1	6				

病名	男	女	計	病名	男	女	計
肺結核	31	8	39	脂肪多症	1	1	2
氣管支炎	23	1	24	パノチ氏病	1	1	2
肺氣腫	4	1	5	泌尿生殖器疾患	23	8	31
肋膜炎	2	1	3	腎炎	16	5	21
胸膜炎	3	1	4	萎縮腎	3	2	5
喘鳴	2	1	3	子宮内膜炎	3	2	5
感冒	1	1	2	陰囊水腫	2	1	3
循環器疾患	60	22	82	膀胱かたる	1	1	2
動脈硬化症	27	11	38	子宮脱出	1	1	2
大動脈炎	4	4	8	子宮後屈	1	1	2
心筋炎	4	1	5	産褥熱	1	1	2
心臟瓣膜障礙	1	5	6	其他	2	3	5
其他心臟病	25	1	26	消化器疾患	29	2	31
全身病	36	10	46	胃かたる	9	4	13
脚氣	35	7	42	腸かたる	7	4	11
糖尿病	1	1	2	痔核	4	1	5
貧血	1	1	2	胃腸かたる	2	1	3